

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム栞	評価実施年月日	平成19年10月15日
評価実施構成員氏名	・森武                      ・渡辺 ・秋山                    ・小野 ・坂口                    ・玉野 ・村岡                    ・長谷川 ・藤川		
記録者氏名	森武	記録年月日	平成19年11月20日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域で暮らし続けられてきたその人としての権利、尊厳を尊重し、地域の馴染みの人々の訪問を受け語らいの中で馴染みの家族や、馴染みの人に守られて、安心、安全、安楽な生活が出来ることを念頭に支援することを理念としています。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の生活の中で話し合いをし、取り組んでいます。月曜日に理念の呼唱を実施し共有しています。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族会や運営推進委員会、又は行事を行う時、地域の方々が来所された時などにお話をさせていただいています。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方々から野菜を頂いたり、行事の時に来所されたり日常散歩の時に話したり、日常的なおつきあいをさせていただいています。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に参加させていただいて歌などを町民の前で歌い祝儀を頂いたり、反対に地域の方が来所されハーモニカを吹いて下さったり、子供達が歌やお話の本を読んでもらったりしています。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	近隣の方で介護車が必要な事が発生した時には、職員の派遣、介護車の差出し等を準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>外部評価を受ける事で、再認識すると共に、ケアに対して更に向上しなければという新たな気持ちを持つ事が出来、申し送りや会議の時などに課題検討している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>消防訓練を高校の寮が近いので協力を得て合同で行ってはどうかとの声もあり、高校の協力を得ている。</p>	<p>今後、高校と夜間における訓練を合同で行うこと等具体的な面の調整を行いたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>運営推進委員の中に市町村は参加しないとのことなので会議の中で意見を聞くことは出来ませんが、行政側に運営推進会議の報告をし、何かあればその都度意見を聞いたり、情報交換をしている。</p>	<p>今後も会議終了後、運営推進会議の内容等を書面で直接行政に報告、説明をし、アドバイスを受ける。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>特にホームの中で学ぶ機会を持ったことがない。</p>	<p>学ぶ機会を持ちたいとの意見が出たので半期に理事が計画し全員に教育を担務する。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日々の生活の中で常に話し合いをしている。 身体にアザや異常を発見する機会は入浴や排泄時などに確認出来るので、何時の時点かを話し合い見過ごすことのない様にしている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>家族等に不安がないように何度も説明しています。納得後、署名、捺印を得ている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見、不満、苦情があった場合は職員全員で話し合い、安心して過ごしていただけるようにしています。また玄関に意見箱も設置しています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者に変化があればその都度、家族へ報告をし定期的に日常生活状況(本人の写真入り状況知らせ)を送付しています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情等があれば、職員全員で協議をし、内容によっては理事会にかけてもらい、その結果を運営委員会又は家族会、行政に報告をする等の体制をとっています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスやミーティングを毎月行っていますので、その時に意見を聞いて対処しています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じてその都度対応している。緊急時に対応することが出来る様に職員の理解協力を得ている。また余裕のある勤務体制をしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	常に利用者を中心としていますので配慮して対応している。当事業所は離職者も少ない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の案内などを事務所に提示し希望者などの参加を進めています。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との交流、又は研修を受け入れ要望に対応しています。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスに関しての軽減の取り組みは少ないですが、スタッフとして勤務し3年をすぎた者には一泊旅行などのプレゼントをしています。今後も長期勤務者に対して計画している。		
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	各自が働きやすい職場であり、やりがいのある職場になるように勤務状況を把握している。資格等を保有した場合はその人に対して資格手当等を出している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人が考えていること、求めていること、それが金銭面か環境面か対人面か、退去の未解決の課題なのかなどを見極め本人を受け入れ、安心してもらえるよう日々対応している。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族に関しても同上ですが、家族とは本音の会話を重視し、その思いを共感していけるように努力している。また、家族と共に行動し悩むようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応は極力管理者、ケアマネ兼看護師で対応するようにしています。一回の対応で見極めきれない時もありますので、何度かお話をさせて頂く時もあります。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	御家族や本人からの希望、要望を聞き、職員で話し合いをし、その結果が反映されるように対応し家族や本人にも話をして徐々にサービスを提供しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者と一緒に食事作りをしたり、後片付けをしたり感謝を忘れず日常生活を過ごしています。 また、町営の風呂に一緒に入り背中を流し合っています。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来所時などに入浴介助を見学してもらったり手伝いをさせていただいたりする時などもあります。 行事や家族会など、家族、介護員、利用者が一緒に過ごせる時間を設けている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者の希望などを家族に伝え、家族に理解していただいたり、家族と外出されたりすることのお手伝いをしています。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	利用者の知り合いの方などに合った時などは、ホームに遊びに来てくださいなどの声かけや、外出にも力を入れています。(町内行事の参加など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	午前・午後一日2回のおやつの時間があり、歌やゲーム、体操などをし、利用者同士が話をされたりしています。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された家族にも行事の時などに参加の声かけをしたり、家族の方々も野菜などを届けてくれたりしています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人が何を希望されているのか、常に話し合いをして、本人の生活を大切にしています。 ドライブを強く要望される場合は再度ドライブに行くようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	自宅で使用していた家具、タンス、テーブルなどを持ち込んで生活している。相撲等、星取表を作り本人に記録あるいは補助し取り組み、結果を話し合い喜び合っている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人の一日の生活パターンを把握し、各自の身体状況に合わせた生活を送れるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月ケアカンファレンスを行い、介護支援専門員を中心に介護員全員で話し合い、介護計画を立て結果を本人、家族にも報告し、意見などをいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月ケアカンファレンスを行い、スタッフ全員でケア計画の見直し評価を行っている。家族の来所時には発生している問題に対する対応結果について報告している。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月の様子の記録は出来ている。		介護計画をもとにしたケアの実践は行っているが、その記録結果についての記録は少ない。記録から計画の評価ができるよう計画にもとづいたケアの実践記録ができるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	行っている。 例えば、車椅子の方がお寺での法事や墓参りに行く際の介護者を活用した送迎、支援、日常生活での必要な消耗品・雑貨の購入。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進委員の中に民生委員が入ってくださったり、高校生や小学生などの訪問などもあり、利用者に関わりを持ってもらっている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や要望のある場合には散歩や買い物など柔軟に支援を行っている。		今まで対象者がいなかった。対象となる利用者がいれば検討していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターとは連携は取れている。		今まで対象者がいなかった。対象となる利用者がいれば検討していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームにも看護師がいるので利用者の身体状態を常に把握している。また、地域の病院の看護師にも相談している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	市立病院の神経科を受診しているが、認知症に詳しいとは思えない。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームに看護師がいるので日常の健康管理を行い、地域の看護職にも相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合などは何度も病院へ行き状況などを病院関係者から話を聞いている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	実際に終末期を向かえた方はいませんが、家族とはお話の中で時折話しています。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	町立病院は平日の日中しか診察を受けることができませんので、実際には難しい点があります。訪問診療などありません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームより自宅へ帰られた方がいましたが、家族がとても不安になっていたので何度も相談させていただき、退所後も様子を聞かせていただきました。現在はとても元気で自宅で生活されています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの確保には気をつけているが、時々プライバシーを傷つけるような言葉を聞くときがある。</p>		<p>スタッフがお互いに声を掛け合い、その都度気をつけている。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の思いを納得するまで聞き、納得されるまで話す姿勢をとっている。</p>		<p>納得されないままその場を離れたりせず、ゆっくり話を聞くようにしていきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のペースに合わせ、日常生活を送っていただいている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>スタッフの中で美容の有資格者がいるのでボランティアで行っていたが、一人の利用者家族より訪問して散髪してもらいたいと希望があり美容師に来てもらった。</p>		<p>今後、本人、家族より希望があれば理・美容院へ連れて行ったり、訪問してもらったりしていきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の意見を聞きながら、一緒に行っています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒は行事の時などに出しています。飲み物、おやつ等は本人の希望を聞いたり季節のものを出しています。		外食のときなどは特に本人の希望されるものを出しています。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日常の行動や習慣を把握し、さりげない声かけをしている。自尊心を傷つけない対応をしている。夜間トイレ使用が困難な方はポータブルトイレ使用。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者に希望を聞き対応しています。日曜日、入浴の回数などは決めず、入りたい時に入ってもらっている。		夜間の入浴は現状の勤務の中では難しいのですが、利用者の希望があれば改善していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠剤服用者の服用時間を本人に決めてもらう。その日の体調にあわせ早めに休んでもらったり、季節に応じてパジャマ、寝具を交換するなどしています。夜間空腹を訴える時などは牛乳などを飲んでいただいたりしています。		落ち着かない方と一緒にいて、話をゆっくり聞いたりしています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	手伝い等、何か仕事をしたい人には、その人に合わせて出来ることをお願いしている。散歩、買い物、外食など外出の機会を設けている。歌を歌ったりレクリエーションをしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出や通院の帰りなどに買い物をしている。		お金が無くなるなどの訴えがあるので、本人がいくら持っているのかの確認が必要。家族にもいくら置いていったか確認する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩などに行っている。		他の利用者の身体状況により希望する時に行くことが出来ない時もあるが、極力戸外に出かけるようにする。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ドライブへ行ったり、町内施設見学へ行ったりしている。町内外での外食を行っている。家族も同席している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望により電話の取り次ぎをしている。手紙はスタッフが投函している。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来所され、居室やホールでお話をされています。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のないケアに取り組んではいますが、少々言葉の暴力なのではと思うときがある。		決して言葉の暴力がないようにスタッフ全員お互いに言葉をかけあい気をつけていきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	通院などのためどうしてもスタッフが少なくなり目の行き届かない時間のみ鍵をかけることがあります。それ以外は鍵をかけていません。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	スタッフ全員誰がどこにいるのかを把握しています。ケアの場から抜けるときには必ず他のスタッフに声をかけています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	タバコ、マッチ、刃物の取り扱いについて、タバコを吸う人は入所していませんが、訪問される家族の方にはその旨ご協力をお願いしている。刃物を所持されている方についてはその保管等に常に注視し、心身の状況に合わせた関わりをしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	夜間の転倒があるため、離床マットの使用や食事摂取時の嚔下状況の見守り、服薬介助など事故防止に取り組んでいます。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防訓練を年2回ほど行い、救急対応の訓練を受けています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	高校の協力をさせていただくことになったので、今まで以上に避難させやすいかと思えます。近所の方々にもお願いしています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族が納得されるまでリスクについては説明させていただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日健康状態をチェックし、気付いたことは申し送りをして視察を続け記録を残している。</p> <p>必要時には管理者、看護師へ報告し提示を受け状況によって早期受診している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの内服薬について分かりやすいように、薬品名、服薬量について一枚の用紙にまとめている。</p> <p>確実に服薬できるよう本人に合わせた介助を行っている。</p> <p>職員全体が全ての薬について薬の目的、副作用について理解できていない。</p>	<p>職員全体が全ての薬についてその目的、副作用が理解できるようまとめた用紙を作成する。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの排便状況を把握し、牛乳を飲んでもらったり必要時には本人の状況に合わせた緩下剤や下剤を主治医と相談の上で服用している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い夜間は義歯の洗浄、消毒を行っている。</p> <p>言葉を理解できない利用者については口を開けたり含嗽が困難で口腔内の観察しが行えていない。</p>	<p>自力での口腔ケアが困難な利用者の口腔ケアの方法を検討していく。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食、一人ひとりの摂取量に合わせた盛り付けを行っている。お粥やきざみ食など食べやすいよう工夫している。</p> <p>本人の希望するものは毎食食卓へ出している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染マニュアルを作成して提示している。</p> <p>また流行する時期は皆で声かけをして手洗いやうがいを行うようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗いの徹底と調理器具の除菌洗浄の徹底に心がけ、賞味期限の確認又は保存方法に気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホームの前には花畑と野菜畑があり、親しみやすい環境を作りプランターなどで花も飾っています。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食卓テーブルの上などには季節の花を飾り、季節に合わせて飾りつけなどもしています。又、廊下などには歩行の邪魔なものは置かず、安心して歩けるようにしています。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にはベンチ、椅子等を置き、休むことが出来るようにしています。ホールにはソファや畳を置き横になれるスペースも作っており、思い思いに過ごす事ができます。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には家で使っていた馴染みの物を持ってきて置いています。仏壇を持ってこられている方もいます。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	天気の良い日などは窓を開け換気をしたり、ホール廊下の換気扇を使用しています。冬期間の湿度の調整は、加湿器や濡れタオルを干して調整している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある            数日に1回程度ある            たまにある            ほとんどない</p> <p>午前、午後のおやつの時などは、ゆっくり話をして過ごすことが出来るが、その他の時間はなかなかゆったりと過ごすことが出来ない。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p> <p>自室で過ごすのが好きな利用者もいればホールで横になっている方やテレビを見ている方など、それぞれのペースで暮らしています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p> <p>洗濯物を干したりたたんでくれたりする事で、手伝いをしているという満足があるので表情が明るいです。            (一部の方は自室へ入ってしまいます)</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者            利用者の2/3くらい  <del>利用者の1/3くらい</del>            ほとんどいない</p> <p>希望する時に同行したいのですが、利用者の身体状況とスタッフの人員により必ず外出させてあげるという事はなかなか出来ませんが、行きたい所へ出かけられるよう努力はしています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p><del>ほぼ全ての利用者</del>            利用者の2/3くらい            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p> <p>スタッフは身体の状態を把握し、いつも目を向けています。ケガなどがないように気を配っています。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者  <del>利用者の2/3くらい</del>            利用者の1/3くらい            ほとんどいない</p> <p>全てとは言えませんが、要望に応じられる様努力しています。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族  <del>家族の2/3くらい</del>            家族の1/3くらい            ほとんどできていない</p> <p>常に家族と連絡を取り、困っていること、不安なことなどを話してもらっています。とても協力してくれる家族もいればなかなか信頼関係を築くことの出来ない家族もいます。</p>

サービスの成果に関する項目		取り組みの成果	
項目			
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように  <del>数日に1回程度</del>  たまに  ほとんどない</p>	時々訪問してくれています。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>大いに増えている  <del>少しずつ増えている</del>  あまり増えていない  全くいない</p>	少しずつグループホームの存在を分かってくれている町民も増え、ボランティアをしてくれる方がいたり、小学生やコーラスの方々などが訪問してくれて応援してくれています。
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が  <del>職員の2/3くらいが</del>  職員の1/3くらいが  ほとんどいない</p>	表面上は笑顔でいきいきと働いてくれています。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p><del>ほぼ全ての利用者が</del>  利用者の2/3くらいが  利用者の1/3くらいが  ほとんどいない</p>	ほぼ満足されているのではないかと思います。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が  <del>家族等の2/3くらいが</del>  家族等の1/3くらいが  ほとんどいない</p>	来所時にいろいろな相談があったり聞いてくれるので、満足されているのかなと考えています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

スタッフが時間をあまり気にしないのでギスギスした表情、ケアをしない(今日出来なかったら明日にしようなどのゆったりした考え)  
植物状態の方にも表現が出来る様な関わり方をしている。